

# 製品安全データシート

## 1, 化学物質等及び会社情報

製品名 アセトン Acetone  
(化学用) アセトン

作成日 2000年10月28日

改訂日 2022年4月1日

会社名 東工薬株式会社  
住所 〒340-0813 埼玉県八潮市木曾根 744

●連絡先及び緊急連絡先  
担当部門 SDS 作成担当  
担当住所 〒340-0813 埼玉県八潮市木曾根 744  
電話番号 048-996-9235 FAX 番号 048-997-2597

## 2, 危険有害性の要約

【GHS 分類】 (NITE 分類 No.635)

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分 2

健康に対する有害性

急性毒性 経口 : 区分外

経皮 : 区分外

吸入: ガス : 区分

吸入: 蒸気 : 区分外

吸入: 粉塵ミスト : 区分

皮膚腐食性/刺激性 : 区分外

眼に対する重篤な損傷性 / 刺激性 : 区分 2 B

呼吸器感作性 : 区分

皮膚感作性 : 区分外

生殖細胞変異原性 : 区分外

発がん性 : 区分外

生殖毒性 : 区分2

特定標的臓器／全身毒性（単回暴露） : 区分3（麻酔作用、気道刺激性）

特定標的臓器／全身毒性（反復暴露） : 区分2（血液）

吸引力呼吸器有害性 : 区分2

環境に対する有害性

水性環境急性有害性 : 区分外

水性環境慢性有害性 : 区分外

（注）危険有害性の分類で、「区分外」、「分類対象外」及び「分類出来ない」は項目を省いた。

#### 【GHS ラベル要素】

##### 【GHS 絵表示】



##### 【注意喚起語】 危険

##### 【危険有害性情報】

- 引火性の高い液体及び蒸気
- 眼刺激
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- 呼吸器への刺激のおそれ
- 眠気又はめまいのおそれ
- 長期又は反復暴露による血液の障害のおそれ
- 飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ

##### 【注意書】

- 安全対策

- ・使用前に取扱説明書を入手する。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用する。
- ・防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用する。静電気放電や火花による引火を防止する。
- ・熱、火花、裸火、高温のものから遠ざける。－禁煙。
- ・容器を密閉しておく。
- ・個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避ける。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。

#### ●救急処置

- ・火災の場合には、消火に粉末・二酸化炭素・泡消火器を使用する。
- ・眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受ける。
- ・皮膚(または髪)にかかった場合は、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ、取り除く。皮膚を流水、シャワーで洗う。
- ・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- ・飲み込んだ場合は、直ちに医師に連絡する。口をすすぐ。吐かせない。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合は、医師の診断、手当を受ける。
- ・気分が悪い時は、医師の診断、手当を受ける。
- ・取り扱った後、手を洗う。

#### ●保管

- ・容器を密閉して換気の良い涼しい所で施錠して保管する。

#### ●廃棄

- ・中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

### 3, 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：単一製品

化学名                  : アセトン

化学式                  : C<sub>3</sub>H<sub>6</sub>O

CAS No                  : 67-64-1

含有量                  : (化学用) 99.0%以上

化審法                  : 2-542

安衛法                  : 公表

### 4, 応急措置

- 吸入した場合：新鮮な空気と安静。必要な場合には人工呼吸。医師に連絡。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣服を脱がせ、水と石けんで皮膚を洗浄。医師に連絡。
- 眼に入った場合：先ず数分間、多量の水で洗い流す（できればコンタクトレンズをはずす）。医師に連れて行く。
- 飲み込んだ場合：吐かせない。意識あるなら、口をすすぎ、2 - 4 杯の牛乳か水を与える。意識なければ、何も与えない。医師に連絡。

### 5, 火災時の措置

消火剤

水スプレー、粉末消火薬剤、**AFFF**（水性膜泡消火薬剤）、泡消火薬剤、二酸化炭素。

消火方法

周辺火災の場合、出切る限り速やかに容器を火災現場より遠ざける。移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

着火した場合は風下の人を退避させ火元への燃料源を断ち、風上より消火剤を使用して消火する。

消火に当たっては保護具を着用する。

消火を行う者の保護のために着用する保護具：防火保護服、手袋に加え、空気呼吸器等を着用する。

### 6, 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項

暴露しないよう十分な換気のもと保護具着用して行う。

#### 保護具及び緊急時措置

「8. 暴露防止及び保護措置」における、保護具着用

#### 環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

#### 回収、中和

漏出物をふた付の容器に集め、残留物を砂または不活性吸収剤に吸収させて安全な場所に移す。

### 7, 取扱い及び保管上の注意

#### 取扱い

蒸気、ミスト、ガスが皮膚に触れたり吸入することがないように、局所排気し、保護具を着用。

作業場を換気する。

作業中は飲食、喫煙をしない。

強酸化剤との接触に注意する。

#### 保管

火気厳禁。

密栓して換気のよい冷暗所に保管する。

強酸化剤から離しておく。

### 8, 暴露防止及び保護措置

通気：換気装置を用いて、ミスト、蒸気濃度を低く保つ。

管理濃度（2005年）：500ppm

許容濃度：ACGIH(2007年)

TLV-TWA：500ppm,

TLV-STEL：750ppm

日本産業衛生学会勧告値（2006年）：200ppm, 470mg/m<sup>3</sup>

## ◇設備対策

局所排気装置

## 保護具

有機ガス用防毒マスク。送気マスク、空気呼吸器等。

不浸透性保護手袋。

安全ゴーグル。

不浸透性保護衣。

**9, 物理的及び化学的性質**

外観：無色透明の液体

臭い：特有の芳香

pH: データなし

融点：-94°C

沸点：56.5°C

引火点：-20°C（密閉式）

爆発範囲の上限・下限： 2.5～12.8 vol%（空气中）

蒸気圧：24.7kPa（20°C）

蒸気密度：2.0

比重（相対密度）：0.788 /25°C

溶解度：水に溶ける

n-オクタノール／水分配係数：-0.24

自然発火温度：465°C

分解温度：データなし

**10, 安定性及び反応性**

反応性と安定性：常温常圧で安定

混触不可物質：強い酸化剤、無水クロム酸、過塩素酸ナトリウム、塩素酸ナトリウム、亜塩素酸ナトリウム、臭素酸ナトリウム、過酸化水素、硝酸、硝酸アンモニウムなどと激しく反応し、発火することがある。

## 11, 有害性情報

### 急性毒性 経口

ラット LD50>5000mg/kg (SIDS (1999)) ; (ACGIH (2001)) に基づき区分外とした。

### 急性毒性 経皮

ウサギ LD50 > 5000 mg/kg (ACGIH (2001)), (SIDS (1999)) に基づき区分外とした。

### 急性毒性 吸入：ガス

GHS 定義による液体

### 急性毒性 吸入：蒸気

ラット LC50: 32000 ppm (75.8mg/L) (SIDS (1999))

この値は口分4の判定基準の2.5倍(50 mg/L)の範囲外であるため区分が意図した。(20度、アセトンの飽和空気は230000ppmであり、吸入毒性試験は全て蒸気状態で行なわれたとみなす。)

### 急性毒性 吸入：粉塵ミスト データなし

### 皮膚腐食性/刺激性

ウサギ皮膚に対して刺激性なし(EHC 207 (1998)), (SIDS (1999))の記載より区分外とした。

### 眼に対する重篤な損傷性/刺激性

蒸気は人の眼を刺激する。しかし暴露が止まると刺激性は続かない(ATSDR (1994))。ウサギでは severe という結果が報告されている (ACGIH (2001))。角膜上皮は破壊されるが、基質までは至らず、角膜上皮の破壊は4-6日で回復する。アセトンは腐食性の眼刺激性ではない (SIDS(1999))。以上の記述より区分2Bとした。

### 呼吸器感作性 データなし

#### 皮膚感作性

Mouse ear swelling test 及び Guinea pig maximization test で negative(SIDS (1999))と記載されているので、皮膚感作性は区分外とした。

#### 生殖細胞変異原性

in vivo 小核試験で陰性 (SIDS (1999)) , (EHC 207(1998)) により、技術上の指針に従って区分外と分類した。

#### 発がん性

ACGIH A4 (ACGIH (2001)) であり、技術上の指針より区分外と分類した。

#### 生殖毒性

疫学調査で流産への影響なし (A T S D R、1994) という報告がある。ラットの高濃度暴露 (11000ppm (20mg/L)) でわずかな発生毒性 (胎児体重減) (E H C、207 (1998)) が、マウスの高濃度暴露 (6600ppm(15.6mg/L)) で胎児体重減、後期胚吸収率増 (EHC、207 (1998)) が報告されている。EHC では、ヒトと動物で更に検討が必要であるとの記載がある。以上のことより区分 2 とした。

#### 特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)

ヒトへの 12000ppm の暴露で喉の刺激 (ACGIH (2001))、1190、2400 mg/m<sup>3</sup>/6h の暴露で鼻、喉、気管の刺激 (EHC 207 (1998))、1000ppm/4h の暴露で喉の刺激 (EHC 207 (1998)) の記載より区分 3 (気道刺激性)、200ml を飲み込んだ男性に昏睡 (12 時間後意識回復)、12000ppm 暴露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神 (ACGIH (2001)) の記載より区分 3 (麻酔作用) に分類した。

#### 特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)

ボランティアによる試験で 5 0 0 p p m、6 時間／日、6 日の曝露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の貪食作用の有意な減少が観察されている (ACGIH (2001)) ので区分 2 に分類した。ラット、マウスの試験でもガイダンス上限値を大きく超えた投与量ではあるが、ヒトに見られたと同様な血液学的変化が認められた (SIDS (1999))。その他のラット、マウスの試





- (政令番号 第 17 号「アセトン」)
- : 名称等を表示すべき危険物及び有害物
- (政令番号 第 17 号「アセトン」) (別表第 9)
- : 第 2 種有機溶剤等
- (施行令別表第 6 の 2・有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第 4 号)
- : 危険物・引火性の物 (施行令別表第 1 号第 4 号)
- : 作業環境測定基準、作業環境評価基準
- 化審法 : 優先評価化学物質 NO. 1 1 4 「アセトン」
- 優先評価化学物質の評価対象、人健康影響
- 消防法 : 危険物第 4 類引火性液体、第一石油類水溶性液体 指定数量 4 0 0 L
- 危険等級 II (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1)
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 船舶安全法 : 引火性液体類 (危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)
- 航空法 ; 引火性液体 (施行規則第 1 9 4 条危険物告示別表第 1)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Z 類物質 (施行令別表第 1)
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条第一項)
- 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
- 麻薬向精神薬取締法 : 麻薬向精神薬原料「アセトンが 5 0 % を超えて含有する物」
- 輸出貿易管理令 : ①輸出承認品目
- 「アセトンが 5 0 % を超えて含有する物 (ただし、輸出総価額 3 0 万円以下のものは少額特例で除外される)」
- (別表第 2 NO, 2 1 - 3 「麻薬及び向精神薬取締法第二条第 7 号」) に規定する麻薬向精神薬原料その他の麻薬又向精神薬の原材料となる化学物質として経済産業省令で定めるもの)
- : ②キャッチオール規制 (別表第 1 の 1 6 項) 第 2 9 類 有機化学品

HSコード：2914.11-000 「アセトン」

## 16, その他の情報

### 参考文献

- メルクインデックス 13版 67
- 危険物船舶運送及び貯蔵規則；危険物総索引（九訂版）日本海事検定協会（海文堂）
- NITE GHS 分類データ No.635
- NITE GHS 分類マニュアル（H18.2.10 版）
- 製品安全データシートの作成指針（改訂第2版）（（社）日本化学工業協会）
- 化学物質総合情報提供システム（CHRIP）（N I T E） <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

### コメント

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。全ての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。特別な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。